



今だから つながりましょう!!

緊急事態宣言再延長……。同窓会の活動再開も、またまた少し延びてしまいそうです。この間役員の所には、同窓会ニュースの発行を促す電話が数件ありました。活動が出来ないことを承知だが同窓会に関する何らかの記事が読みたい、会員の紀行文などを読んでみたい、同窓会の匂いが欲しい……。などなど。

3月にはNewsで活動再開のご報告をと思っていましたが、いつになるか分からず、趣旨でもある「会員をつなぐ紙面」を目指し、Newsを発行します。第3号の後に寄せられ、皆さんにご紹介しようと思っていたご意見を以下に掲載いたします。皆さん、どしどしご意見や感想、身辺報告などをお寄せください。

それにしても、今年に入ってから新型コロナウイルスの暴れ具合は尋常じゃないと思います。緊急事態宣言が首都圏に発出され、我慢を強要され、公共施設はすべて閉鎖されました。「不要不急の外出は控える」「人と会うのを自粛する」など、人間の基本的な営みを禁止している事態となっています。同窓会はどうなるのでしょうか。しばらくは、高齢者が好む対面交流は期待できないでしょう。空気感が伝わらない味気ないオンライン交流で乗り切るしかないのでしょうか。脳みそが錆び付いている翁の考えていることを以下に披露します。

1 巣ごもり脱出老人

巷では、高齢者のコロナ廃人、コロナフレイルが囁かれています。一層の「巣ごもり」強化により、同窓会「はらから」の身心が壊れ行くのが心配だ。まだ、脳みそが錆び付いていない「はらから」は、団体交流を絶たれ、一人でウォーキング・ハイキングに励んで、身心の破壊を防御している。

2 陰に籠もった感動・魂のときめき

ウォーキング・ハイキングは、今まで気付かなかった小鳥・昆虫・草花・樹木などの控えめで、我慢強い生態の新発見をもたらす。驚嘆し、感動する機会の連続だ。あふれ出る孤独な魂のときめきは、多くの場合、皆に紹介したくなる。今は叶わない各種の展示会・展覧会と心理は同じだ。

3 踊る機会を逃すな

人との接触を絶たれた老人の、孤独なウォーキングが増えている。大自然の小さな1部族である人間が、大自然に回帰しようとすることは、当然の流れだ。この陰に籠もった、孤独な「新しい発見」「魂のときめき」を見逃すことはない。同窓会での吸収する仕組み（クラブ連絡委員会？地区活動推進委員会？運営推進委員会？）を構築し、交流を深めるべきだ。

以上です。少しでも参考・ヒントになれば、幸いです。

(Mさん)

岳先生による公開講座再延期のお知らせ

既にメールにてお知らせしておりますが、岳真也先生の公開講座は、安全・安心の確保を図るため、再度の日程変更を余儀なくされました。皆さま方には、大変ご迷惑をおかけ致しますが、右記のとおり開催致します。なお、会場・開催時間・講座内容に変更はありません。本件についての質問及び新規に受講を希望される方は担当者までご連絡下さい。

旧	新
1回目(3月24日)	→ 4月28日(水)
2回目(4月21日)	→ 5月12日(水)
3回目(4月28日)	→ 5月19日(水)

担当 六車徳誠 : 携帯 080-6548-4599 メール ntbkc196@yahoo.co.jp

※ メールのお知らせでメアドの先頭の「n」が抜けていました。失礼しました。お知らせ下さった占部さん、有り難うございました。

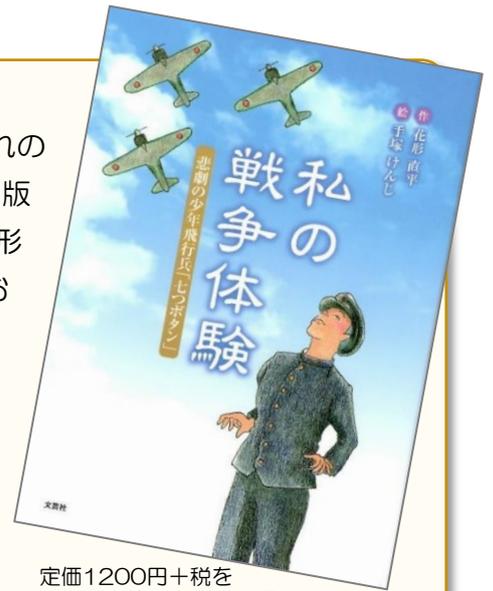
皆さんどうお過ごしでしょうか？

投稿募集中
で～す！

裏面は、コロナ禍の中絵本を出された花形さん、犯罪被害者等支援の会オリーブの活動、会長エッセイをご紹介します。皆さんの近況もお知らせください。

● 『私の戦争体験』 出版 ●

今までも様々な著作活動をしてきた花形直平さん。昭和4年生まれの91歳。同窓会会員最長老だ。その花形さんが、この3月に絵本を出版した。題して『私の戦争体験』。15歳、紅顔の美少年(?) だった花形さんが7つボタンに憧れて入隊した海軍の記憶。卒寿を超えてもなお鮮明に残っている記憶だ。戦後76年たった今も、当時の下士官に、「お前さん達まだ生きてるか、反省しているか」と声をかけたいほどの日本海軍の恥の歴史が描かれている。そして「戦争末期に純真な少年達を特攻として死地に追いやった軍首脳の罪は重い」と結ばれている。作品は市役所玄関右側本棚に展示されている。購入希望の方は藤野勝さん(080-4354-6583)まで連絡を。



定価1200円+税を
特別1000円で

● コロナ禍でも 犯罪被害者支援 ●

狭山市犯罪被害者等支援の会オリーブでは、令和3年2月15日(月)～2月19日(金)の間、狭山市役所1階ホールにおいて、犯罪被害者等支援パネル展を開催し、来場者に活動の趣旨説明や来場者からの相談受理等にあたりました。

オリーブの会の代表 佐藤咲子さんは、さやま市民大学同窓会会員であり、オリーブのスタッフにも同窓会会員が所属しており、過去二年間に開催された同会の講演会を、同窓会が後援し全面的に支援してまいりました。今回も、さやま市民大学同窓会が後援し、多数の来場者の対応にあたりました。



● ピンチはチャンス ●

新型コロナウイルス感染症の影響で、世の中を劇的に改善できることも少なくはない、と仰るのは新所沢にお住まいのC先生である。私は同窓会で企画運営する予定の『まちづくり』構想をC先生に相談すべく、約束した喫茶店に行った。話が一段落したのち、先生は仰った。「毎日早起きして満員電車で揺られ、出勤する彼ら。苦手な上司や得意先と会い、無理な笑顔を作って仕事に追い込まれている彼ら。夜半遅くまで残業して帰宅していた彼ら。だが、彼らサラリーマンはコロナ禍で在宅勤務になり、快適に仕事ができるようになった。社内での重要会議、開発発表などもネット方式で効率よく実施でき、出張も必要なくなっている。会社で行われる会議や通常の仕事は、WEB上やビデオを通じて行う企業が大半を占めるようになった。コロナ禍を経て、私たちには新しい企業の仕組み、社会活動の抜本的改善がもたらされると思うよ」。

今やインターネット社会が進み、ほとんどのことがネットで事足りる世の中になっている。それもコロナ禍でますます加速している。年齢に関係なくネット社会は、世の中に浸透してゆくだろう。私も、もう少しPCのスキル向上に努力をしてみようと思った。同窓会も様変わりのチャンス到来と捉えるべきであろうか。会議もWEBで行うことが、現実味を帯びてきた。(中嶋会長)